

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196400095		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・吉川きよみ野		
所在地	埼玉県吉川市きよみ野2丁目15番地1		
自己評価作成日	令和2年11月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	令和2年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々楽しく過ごして頂くために、日常の中で、楽しみやご本人の役割を見出して頂ける様に、ご本人にあったレクリエーションや家事仕事等への参加の声掛けをしております。
また、季節の移り変わりを感じて頂くために、散歩、歳時の行事を行うと共に、季節を感じる内容の物をご利用者様と一緒に作り、フロアの壁に飾り付けしております。
地域のみな様との交流を深めるために、下記の活動をおこないながら、地域のみな様のご協力を頂き、明るく安心して暮らせるホームを目指しておりますが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、実施出来ていません。 1. 近隣の保育所との交流 2. オレンジカフェ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍においても工夫しながら行事を実施するなど利用者のストレスの緩和や衛生管理に努めています。ウイズコロナに日々取り組む管理者をはじめとする職員の皆さまに改めて敬意と感謝の意を表します。
●近隣の保育所の運動会見学は本番ではなく予行演習に行くことで時間や混雑への配慮をするなど考えられた方策がなされています。日頃より近隣との関係性を築いていることにより成せることであり、他の事業所の範となる取り組みといえます。
●新聞の購読等入居前からの習慣はなるべく継続できるよう配慮しています。利用者の心身の状況が変わる中、季節感を大事にし、室内で紅葉を楽しむイベント開催をするなど工夫した取り組みがなされています。
●丁寧な対応にプラスアルファとして利用者へ伝えるコミュニケーションを心掛けています。ケアプランについても言葉により表現できない利用者の思いを計画に反映させるなど単なる支援にとどまらないケアの実践に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの見やすい場所に掲示し、各会議等により方針、目標の内容を話し合い、具体化し実施している。	事業所内掲示、パンフレット・ホームページへの掲載等により理念の周知にあたっている。認知症および利用者への接し方について事業所内研修を実施するなど基本と研鑽への指導を大切に運営が進められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所の運動会の予行練習を見学させて頂く、園児に来訪して頂く等、良い関係を築いてきたが、新型コロナウイルス感染症の予防対策により、交流が中断している。	近隣の保育所の運動会見学は本番ではなく予行演習に行くことで時間や混雑への配慮をするなど考えられた方策がなされている。日頃より近隣との関係性を築いていることでできることであり、他の事業所の範となる取り組みといえる。	新型コロナウイルスの影響からオレンジカフェの開催を中断しており、再開後は外部の来訪者の増加につながるよう取り組む意向をもっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「見守り声掛け実践講座」等を通し、認知症の理解や支援の方法を、地域の人々に働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症の予防対策により、開催していない。	行政・地域包括支援センター・家族等が参加し開催されていたが、新型コロナウイルスへの影響により中断している。終息までは書面の配布等によりホームの現況を伝えていく意向をもっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来訪も、新型コロナウイルス感染症により、中断しているが、市が開催する介護相談員連絡会等には、出席している。	行政・地域包括支援センター・介護相談員等とは連絡会等を通じて関係性を構築している。認知症への理解を深めるための講座・オレンジカフェの開催など関係機関と連携した取り組みがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の後に身体拘束廃止委員会を開催し、多くの職員が委員会に出席できる様にして、身体拘束廃止に関する意識付けの向上を図った。(玄関は不審者の侵入防止のために施錠している)	身体拘束廃止委員会を年6回開催するなど虐待防止について職員内の研鑽を深めている。スピーチロック等についても委員会内で検討し、ケアに活かすよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修等を行い、内容の理解と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社の人材開発部門より、案内があり、全員に回覧。受講希望者には、シフトの調整等で支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見は、申し送りノートに書いて、職員間で共有し、ホーム運営に反映されている。	新型コロナウイルス感染防止のため、面会を制限するなど対応を図っている。家族へは手紙を送る・ケアプランの説明をする等によりホームおよびケアへの理解を深めてもらえるよう努めている。	避難訓練の様子は家族や地域に伝えるようポートフォリオ風にアレンジした報告書を作成している。今後はブログの更新・写真の送付等を充実させ、家族の不安を払拭していく意向をもっている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課制度では、2回／年、個別面談を行うことになっており、意見や要望の把握に取り組んでいる。職員会議等からも収集に努め、事業所運営に反映させている。	ホーム全体・フロアごとの会議が設定されており、開催がなされている。利用者個別のケース検討を中心に支援についての話し合いがなされている。職員間の経験の差についてはベテラン職員と管理職が間に入り、フォローしながら全体の調整を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、努力を把握し、各自が向上心を持って働ける様、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれに応じた研修を受ける機会を確保しており、研修結果は、職員会議で報告し、参考資料等は全職員が閲覧出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで交流を持ち、他の事業所の意見や取り組み等をケアに生かし、サービスの向上に取り組んでいます。市役所開催の介護相談員連絡会で同業他社の情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様とのコミュニケーションを図り、傾聴する事を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時等、ご家族様が困っている事、不安な事、要望などを聞き、最初の介護計画を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご利用者様が必要としているサービスができる様に、又、その人が生活しやすい様な介護計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、多くの事を学ばせて頂いている。会話も多く持つよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の変化については、特変記録を作成して、ご家族様に報告し、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、面会や外出を控えさせていただいている。ご利用者様の様子が分かる様に、ブログに掲載したり、写真をご家族様にお送りしている。	新聞の購読等入居前からの習慣はなるべく継続できるよう配慮している。利用者の心身の状況が変わる中、季節感を大事にし、室内で紅葉を楽しむイベント開催をするなど工夫した取り組みがなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「気の合う同士は近く、合わない人は離す」等、席の配置を考慮し、孤立しがちなご利用者様には、職員が間に入り、関わり合える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、要望がないので行っていないが、情報提供できる態勢にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の生活歴や性格、ご家族様との関係、日常生活動作等を収集し、理解に努めている。介護計画立案時には、ご本人様の思いを聴いている。困難な場合は、「ご本人様にとって」を念頭に、思いを汲み取る様に努めている。	利用者に心を開いてもらえるよう時間をかけて・職員が協力しながら信頼関係をつくりあげている。意思の表明が難しくなってきた利用者に対しては、生活歴や聴取した情報をもとに分析・検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査資料やご本人様・ご家族様からお聴きする等、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の気付きについては、申し送りに書き、伝達している。また、職員会議やフロア会議で話し合い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様とモニタリングを行い、改善点など課題を相談し、一人ひとりにあった介護計画を作成している。	居室担当職員の日々の観察・モニタリング結果等を考慮し、ケアプランの作成がなされている。言葉により表現できない利用者の思いを計画に反映させるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を1時間ごとに記入し、気づいた事は記録に残し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下機能が低下されたご利用者様へのミキサー食の提供。現在は対象者がいないが、医療連携看護師との話し合いによる褥瘡治療のための大豆たんぱくサブリの摂取による改善等、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、外部ボランティアの受け入れは実施していない。職員が工夫してレク行事を開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター、家族のかかりつけ医と協力しながら、適切な医療を受けている。	往診医について利用者の状況により選択し、健康管理がなされている。往診前には利用者の健康状態や変化を報告するなど対応を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(医療連携体制加算看護師)が週1度訪問した際、情報や気づきを伝達している。又、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人様への支援に関する情報を医療機関に提供している。又、ご家族様とも電話等で情報を共有し、快復時、速やかな退院がなされる様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の進行に伴い咀嚼機能が低下している利用者には、ご家族様が延命処置を希望されない場合、Drとご家族様の話し合いの場をもうける。その結果、ホームでの看取りを希望されている方には、対応をしている。	重度化した場合の指針については重要事項説明書に付し、入居時説明している。利用者・家族の希望に鑑みながら医師と連携し、重度化・終末期の対応にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策マニュアルが掲示されており、それに従った対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施、災害対策を行っている。なお、2回の内の1回は、夜間を想定した避難訓練を行っている。新型コロナウイルス感染症の予防対策の為、自衛消防隊による消防訓練を実施。	避難訓練の実施等万一の事態に備えており、水害対策については運営推進会議において避難方法を検討している。事業所内垂直避難を含め、適切な対応や地域との協力について今後も検討していく意向をもっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重、敬語での声掛けをしている。個人情報口外しない。	丁寧な対応にプラスアルファとして利用者に伝えるコミュニケーションを心掛けている。希望する利用者に対しては入浴の同性介助等プライバシーへの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意見、希望を尊重し、実現出来る様に、声掛けをしたり、様子見をし、よく聞き、お話しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同スペースに長ソファを置き、ゆっくり出来る様に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師によるカットを、2ヶ月に一度ホームにて実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が決めているが、季節の素材を取り入れている。ご利用者様の身体機能に合わせ準備や後片付けを行って頂いている。	栄養量を考慮した献立が作成されており、季節の行事を取り入れたメニューが提供されている。食器拭き・おやつ作りなどに参加してもらうなど利用者ごとのできることを生活の中での楽しみや役割につなげるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が管理し、水分や食事の摂取量はその人に合わせた量を声掛け、または介助にて行っている。水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後行い、出来ない方は介助している。月2回歯科医が訪問、週1回歯科衛生士が口腔内の状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じて、声掛け、トイレ誘導等の介助を行っている。	排せつの状況が記録されており、確認と声かけによりトイレでの排せつを支援している。運動・水分補給等により適切な排せつに向けコントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を小まめに行い、散歩や運動への参加の働きかけをしている。排便コントロールは、ドクター及び医療連携看護師に相談し、指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や入浴のしかたは、ご本人様の意見を尊重して対応している。	拒否をする利用者に対しては時間・職員を変えるなど工夫に努め、清潔が保持されるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常にご利用者の様子を観察し、その時の状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、服用して頂いている。症状の変化は確認する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等の家事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、買い物にお連れしたりしている。	お花見・納涼祭等の季節の行事が年間で計画・実施されている。コロナ禍においても工夫しながら実施をし、利用者のストレスの緩和に努めている。また室内でのイベント・ヨガ教室の実施などもなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望に応じて買い物に同行しています。管理不可能な方に対しては、必要に応じて使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じ、使用出来る様に対応している。手紙が届いた時は直ぐにご本人様にお渡しし、ご家族様にもお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの椅子やテーブルは生活感のある物を使用し、和室もあり自由にくつろげる様になっている。また、テレビ、カセットデッキは不快にならない様に音量に配慮している。職員も大声での声掛けをしない様にしている。	新型コロナウイルス感染防止対策として定時での換気、室内の消毒、マスクの着用、手指消毒等々を講じている。利用者も通院等外出時にはマスクを着用するなど留意にあたっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに長ソファを置き、ゆっくり出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの物の持ち込みを可能な限り受け入れ、今までの生活と違和感無く安心して過ごして頂ける様にしている。また、フロアの壁には、職員と一緒に作られた季節の飾り物を装飾している。	居室担当職員により衣替え、家族へのたより送付、備品の整備等がなされており、モニタリング等状態の確認がなされている。スペースの確保と見守りにより落ち着いた生活ができるよう支援にあたっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの残存機能を生かし、目的ある暮らしが出来る様、バリアフリー、手すりの設置等、安全面に配慮したものにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No.10	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、ご利用者様とご家族様の面会を中止している。ご家族様はご利用者様の様子が分からず心配しておられる。	日常の様子を写真に撮り、毎月のお便りと一緒にご家族様にお送りする。	日常の様子を写真に撮り、毎月のお便りと一緒にご家族様にお送りする。	1ヶ月
2	No.2	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、中断しているオレンジカフェの再開。	外部の来訪者が気軽に立ち寄れるオレンジカフェ。	管轄包括支援センター及び、これまで参加された民生委員等の関係者と意見交換を行い、近隣の住民が集うオレンジカフェの開催。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。